

教育センターだより

平成28年度 第3号

黒部市教育センター

「心に残っているもの」

黒部市教育委員会

教育長職務代理者 大 丸 勝 男

教育委員になって今年で4年目になりました。その間、学校訪問研修をはじめ様々な行事に参加させていただきました。その中で特に心に残っているものを取り上げてみました。

○ 学校訪問研修

一番驚いたのは授業スタイルの変化でした。私たちの頃は、先生の板書を写すことが授業の大方を占めていたような気がします。所謂一方向の授業だったように思えます。それに比べ、今は先生の問いかけに生徒がいくつもの答えを出し、その答えにまた問いかけを出します。その繰り返しで最後まで正答を言いません。所謂双方向の授業です。生徒が自分たちで答えに導いて行く、生徒参加型の授業でした。従来の知識を詰め込む方法から自ら考えて答えを導く方法に変化していました。

○ 合唱コンクール

中学校では秋になると合唱コンクールがあります。クラス対抗で行われる為、自然とクラスに一体感が出来ます。まず各パートに分かれてその中からパートリーダーが選ばれ、そのパートリーダーを中心に練習するわけですが、当然色んな問題が発生します。その問題を解決していく過程で一体感が生まれ、最後には素晴らしい合唱として完成されます。

そしてなにより素晴らしいのは、上級生が何もわからない新入生に合唱の指導をすることです。そのことによって学年を通じた縦のつながりが出来、一体感のある学校になっているということです。

ただ一つ残念なのはコンクールが学校単位で開催されていることです。市内の全中学生が一同に集まって開催されればさぞ素晴らしいことでしょう。



○ 挨拶

入学式や卒業式、その他行事の際には、式辞や祝辞等色んな挨拶がされます。そんな挨拶が最近変化してきました。以前は事前に用意したものを読み上げるだけの挨拶が多かったのですが、最近は卒業式の式辞でも生徒と呼びかけのようにするものや、全く紙を見ずに自分の言葉で話す挨拶が増えてきました。その中で私が心に残った挨拶を紹介します。

今年の小学校音楽会での挨拶です。開会の挨拶で岩井校長は横笛を披露して音楽の楽しさを話されました。祝辞の国香教育長はタップをならして音に触れる楽しさを話されました。そして閉会の挨拶では中校長が「3つの拍手」の話でみんなを幸せにして下さいました。

このような素晴らしい挨拶をされる先生がおられる黒部市を私は誇りに思います。先生方の日頃の努力にほんとうに頭の下がる思いです。これからも子供たちを宜しく願います。

〈平成28年度学力向上市町村教育委員会プラン研究委託事業「拠点校の取組」〉
授業改善、家庭学習の充実、学習規律の確立を目指して

黒部市立若栗小学校

昨年度の国語科の授業改善に引き続き、今年度は、算数科の授業改善を通して、自らの学びを実感し、確かな学力を身に付ける児童の育成を目指し研修を進めてきた。

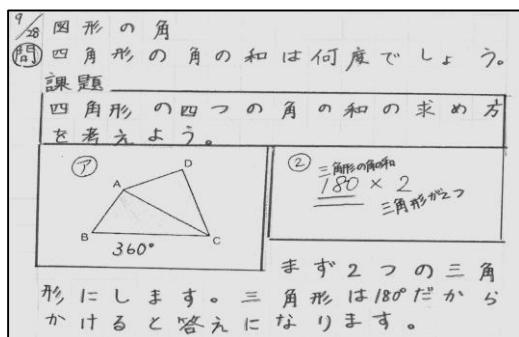
1 授業改善

「できた」「分かった」を実感できる授業を展開するために、問題解決的な学習の過程(問題→課題→個人解決→話し合い→まとめ→振り返り)を大切にしたい。その中でも、本校の課題である「書く活動」と「振り返り」の充実に重点を置き取り組んだ。

(1) 自分の考えをもつための書く活動

① ノート指導の工夫

発達段階を考慮し、ノート指導を工夫した。低学年では、ノートと同じマス目の黒板を使用し、ノートの書き方の基本を身に付けられるようにした。中学年では、絵や図をノートに貼り、自分の考えを分かりやすく書くことができるようにした。そうすることで、ICT機器を活用し、ノートを全体で話し合うための資料として活用することができた。高学年では、見やすく、一目で考えが分かるように、書く内容をしぼり、ポイントを記すようにした。このことは、書いたことに自分の言葉を補いながら話す活動へ移行するのに適していた。



【自分の考えをまとめたノート～5年生～】

② 学習環境の整備

児童が、これまで身に付けた知識や技能を十分に活用し、未習の課題に対して、見通しをもって解決していけるように、教師は系統性を考え、既習内容の要点を掲示した。これは、児童が自分の考えをもつための手がかり(アイテム)となっていた。

(2) 振り返りの充実

① 課題に呼応した学習のまとめ

児童の実態に応じて、課題と呼応した学習のまとめの書き方を工夫した。学習したことに題名を付けさせたり、□うめ式で、□の中にキーワードを書かせたり、キーワードを用いて文を書かせたりして、本時の学びが明確になるようにした。

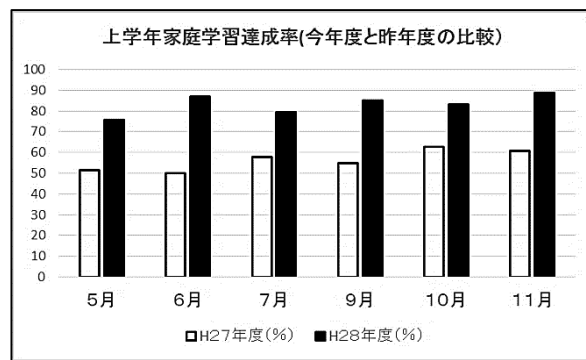
② 振り返りの時間の確保

振り返りの時間を確保するために、学習活動を精選しスリム化するように努めた。そうすることで、適用問題や学習感想等を活用し、児童が学びを実感できる場を設けることができた。

2 家庭学習の充実

(1) 家庭学習の習慣化

家庭学習の習慣がどの児童にも身に付くように努めた。自分の生活スタイルに合わせて計画的に家庭学習に取り組むことができるように、上学年に計画シートを導入した。振り返りを翌月に生かすことで、家庭学習の達成率が昨年度と比べて上がってきた。



また、自学ノート展を充実させるために、内容やノートの使い方のよさを担任が具体的に朱書で示した。そして、1学期の自学ノート作品のコピー(全学年分)を9月初めに全校配布した。その結果、児童は家庭学習の課題のヒントを得るとともに、家庭の理解や協力が得られるようになってきた。

(2) 授業と連動した家庭学習のための研修

学習の定着を図るために、あるいは活用力を身に付けさせるために、研究授業として提案された学習において、学習内容がより確かなものとして定着するよう、適切な課題の出し方や量について検討した。具体的な課題を考え合うことで、教師一人一人が課題のつくりかたを学ぶことができた。来年度は、指導案の中に、家庭学習の課題を明記することも考えていきたい。

3 学習規律の確立

授業改善の取組として、学習規律の確立に努めた。自分の考えをしっかりと伝え合うことを大切にし、ハンドサインや話し方の型を見直し改善を図った。その結果、自分の立場を明らかにして、考えを述べる児童が増えてきた。

また、学習規律に関する振り返りカードを作成し、個人及びクラスで取り組み、振り返りを進めた。課題は翌月の重点にすることで、身に付けたい学習規律を意識付けることができた。

**<平成28年度学力向上市町村教育委員会プラン研究委託事業「拠点校の取組」>
主体的に学習に取り組む態度を目指した取組**

黒部市立宇奈月中学校

1 学習規律の確立

- (1) 「宇奈月中学校学習規律五箇条」を各教室に掲げ、授業に臨む姿勢や授業中の態度を身に付けさせる。

2学年は本年度より1クラスになり人数が多くなったが、生徒自身が学習規律の大切さを感じたようでアンケート結果はよかった。(昨年の10月に比べて)

- (2) 「宇奈月中学校学習規律五箇条」アンケートを実施し、実態を把握する。

学習規律を教室に掲げることによって、教師、生徒が授業中の規律を意識するようになった。

アンケート用紙 実施月・・・第1回(5月)第2回(7月)第3回(12月)第4回(2月)
学習規律に関するアンケート <5月> 生徒用 ()年()組

このアンケートは、学力をつけるために、あなたが【宇奈月中学校学習規律五箇条】を守れたかについて確かめるものです。自分を振り返って答えてください。

(A いつも B だいたい C あまり D まったく)

質問項目	A	B	C	D
1 休み時間のうちに、次の授業の準備をしている。				
2 授業の始めと終わりのあいさつを大きな声でしっかりしている。				
3 正しい姿勢で授業を受けている。				
4 名前を呼ばれたら「はい」と返事をして席を立てている。				
5 話を聞くときは、話す人の方を向いている。				

今後、自分ががんばりたいことを書いてください。

2 授業づくり 授業改善

- (1) 国立教育政策研究所総括研究官山森光陽先生による「課題解決学習」の実践

自分のもっている知識と自分の外にある知識(本、ネット、他人など)を使いながら問題を解決していく。それに似た学習活動を経験させていくことで、生徒の思考力・判断力・表現力を高めていこうとした。

従来、教科書を用いて身に付けた知識が、卒業後に学校以外でも使えると考えられてきたが、うまく使えないときがあるので、実社会で起こるであろう事例に似た課題を学習することが大切であることが分かった。

【課題例】

単元 遺伝の規則性と遺伝子(3学年理科)

太郎さんは、スーパーで白色の粒のとうもろこしを見かけました。今まで黄色の粒のとうもろこししか見たことがなかった太郎さんは、白色の粒のとうもろこしが、黄色の粒のとうもろこしよりも値段が高価なことに驚きました。同じとうもろこしなのに、どうして値段が違うのか疑問に感じた太郎さんは、家に帰ってインターネットで調べてみました。すると、インターネットには以下のようなことが書いてありました。

とうもろこしの黄色の粒と白色の粒のでき方にはどのような関係があるでしょう。生物の遺伝について学習したあなたなら、太郎さんにどのように説明してあげますか。

幻のとうもろこし
「ピュアホワイト」



真っ白なとうもろこしを栽培するのはとても難しく、「幻」と言われるほどです。非常にデリケートな品種で、黄色の粒のとうもろこしの花粉が少しでも混じると白色の粒より黄色の粒が多くなってしまいます。

- (2) 学習成果に対する判定基準としてルーブリックを用いて評価し、次の目標や指導の手立てを的確に構想できるようにしてきた。

- (3) 家庭学習の習慣化を図るため、短時間で授業を振り返ることができるノートづくりの実践。「コーネル式ノート」の実践により、短時間でも学習の「振り返り」をする生徒が増えてきた。

Notes(授業中)

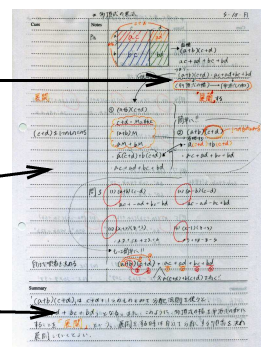
従来のノート

Cues(授業後)

- 重要な事柄をキーワードに要約
- 質問を作成 など。

Summary(授業後)

- 要約・要旨を記入する。
- 課題づくり など。



3 人間関係づくり 学級づくり

- (1) 学級活動の充実

学級活動の年間計画をつくり、予想される様々な問題や企画を計画的に話し合うことができるようにする。(学級活動の内容17項目を年間計画に位置付ける。)

要請訪問研修を行い、学校行事との関連やカリキュラムマネジメントの視点で、3年間を通した学級活動の大切さを学んだ。



- (2) 5月と11月のQ-U調査を活かす。

生徒一人一人の学習意欲や学級満足度から見た学級集団の様子から、2学期以降、学校行事を集団づくりの視点で、企画し、実践に取り組んだ。

11月調査では、それらの実践の効果を確認し、再検証する。



A lot of memories in Macon



11月7日から14日まで、姉妹都市交流研修事業として、市内4中学校の16名の生徒と一緒に、アメリカ合衆国ジョージア州マコン市に行って参りました。その時の生徒の様子や心に残った出来事をお伝えします。

黒部市教育センター 庭田 順子

1 学校生活の場面から

(1)「授業で、携帯使って勉強するんだね！」

初日の授業の後、生徒が興奮気味に話しかけてきました。携帯から、自分の解答を打ち込むと、クラス全体の意見の散らばり具合、正答が何かまで、スクリーンで確認できるのです。ちょっとしたクイズ番組に出演しているようでした。携帯は使わないまでも、ほとんどの授業がプロジェクターを用い、映し出された映像や文字を見て進められていました。黒板とチョークが見当たらなかったのも、生徒たちには驚きだったようです。

日本でも、授業でICTが活用されてきていますが、将来的な授業風景を見た感じがしました。

(2)「日本だったら、不真面目にみえるよね。でも、みんな勉強しとる。」

初めてアメリカの高校の授業を受け、生徒たちは日本との違いに相当なカルチャーショックを受けていました。その時に、私に言ったのが、上記の言葉です。

隣に座った女の子に教科書を見せてもらおうと、爪に真っ黒なマニキュアが塗ってありました。そのまた隣の子は、机の上のポテトチップスを美味しそうにパリパリと食べ、その後すぐに、先生から発せられる質問に答えていました。

「日本だったら、大変なことだわ。」と、アメリカの人に言ったら、反対に「私は日本の学生が授業中寝ているのにびっくりした。授業に参加しないって、一番ダメだと思う。」と言われました。

そんな風に見られているのか…と驚きました。授業は学びの場であり、「学びを放棄」して寝ているのは許されないそうです。

(3)「自販機にお茶はないんだ…」

アメリカでは、子供の肥満が大きな問題となっており、最近のアメリカの学校では、子供たちに砂糖入りの飲み物を販売してはいけないそうです。

そう言われてみると、自販機の中の飲み物は「水」や「~ゼロ」(とりあえず砂糖は入ってない)です。かといって、健康によさそうな日本の「お茶」はどこにも売っておらず、生徒たちはどこでもお茶が買える日本のありがたさを痛感していました。

昼食はカフェテリアで食べますが、自分の好きな物を選択できるため、全く野菜をとらない

生徒もいるそうです。日本の生徒の中にも、せっかくアメリカに来たのだからと肉ばかり食べる生徒もいて、思わず“Eat vegetables!!”と言っていました。

日本の子供たちが健康で、バランスよく成長していくのは、やはり給食のおかげだと、給食の役割の大きさを感じました。



浴衣を着て、折紙や書道、茶道等の日本文化を紹介しました。大好評で、体験コーナーは長い列になりました！

2 ホームステイの場面から

(1)「帰ったらすぐ、味噌汁飲む！！」

16人もの生徒をホームステイで受け入れてもらったのは、今回が初めてです。16家庭もあれば、その家族形態や生活様式は様々でした。

生徒たちの一番の不安は、やはりホームステイでした。外国の、全く知らない人の家で、寝食を共にする。それも、慣れない英語でやりとりをしなくてはならない。プレッシャーはとても大きかったと思います。

しかし、生徒は全員、最後までやり遂げました。コミュニケーションの取り方、食事の違い、自己主張の仕方等、気を遣ったり、戸惑ったりしたことは多かったようですが、音を上げず、本当によく頑張っていました。

食生活に関しては、ご飯やお味噌汁を恋しがる生徒が多かったです。当たり前にご飯が食べられる日本の生活に、作ってくれる保護者の方に、感謝したようです。

(2)「アメリカ大統領選挙の雰囲気を感じた！」

到着した次の日は、4年に1度の大統領選挙の投票日でした。それも、今回はトランプ氏とヒラリー氏が接戦で、世界中がその動向に注目していました。結果はご存じの通りですが、どのチャンネルもその話題で持ちきりで、どれだけ国民の関心が高かったか、生徒たちは肌で感じたようでした。

訪問がなければ、この選挙をこんなにも身近に感じることはなかっただろうと思います。

3 英語学習の場面から

(1)「オレンジジュースすら通じなかった(涙)」

アメリカに向かう飛行機を降りて、私の側に来た生徒がそう言いました。初めてリアルコミュニケーションを行った飛行機の中、注文したものを聞き取ってもらえなかったのです。

自信なさげで、声が小さかったのかもしれませんが。アクセントの場所が異なって、違う言葉に聞こえたのかもしれませんが。

でも、アメリカで生活し、いろいろな人といういろいろな場面で話すうち自信がついたのか、声も大きくなり、楽しそうに会話を交わす姿が見られるようになりました。

「先生、英語って身に付けるんじゃないで、慣れるものなんですわね。」

生徒の体験からでた言葉には説得力があり、とても心に響きました。

(2) "Pen, Pineapple, Apple, Pen!"

5日目のお昼、レストランで注文したものを待っている間、アメリカと日本の学生と一緒に、とても楽しそうに歌を歌っていました。よく聞いてみると、ピコ太郎の歌。本場の生徒の発音はさすがでしたが、それ以上に驚きだったのが、日本で流行中のものが、アメリカでも今現在流行っていることでした。本当に時差を感じさせません。英語を使ってインターネットやSNSで情報を発信すれば、それは世界同時に共有できるのです。

昔は、「先生、オレ、将来英語使うかな？」と言う生徒もいましたが、これだけ情報がやりとりできる今、使おうと思えばどれだけでも活用できる時代にきているのだということを目の当たりにしました。

追記「ハグの日」

お別れの日、たくさんの人とハグをしました。握手だけでは伝わらない、身体全体で感じる体温。

楽しいことばかりではなかったと思うけれど、日本にいては絶対に体験できない8日間。何年経っても思い出せる日々は、人生の中でとても貴重だと思います。

この経験がすぐに何かに影響するほど、単純ではないと思いますが、一人一人が、自分の目で見たこと、肌で感じたこと、心に残ったことを大事にしてほしいと願っています。



ホストファミリーとのお別れの場面



メーコン市庁舎での歓迎会(中央が市長)

第11回 黒部市小・中学校科学作品展 最優秀賞

今年度は、市内各校から優秀作品81点が集まり、その中から下記の8作品が最優秀賞に選ばれました。さらに厳選された5点が県出品となり、第75回県科学展覧会で賞を受けました。

(◆県出品、受賞名)

◇なが〜いしゃぼんだまをつくろう

桜井小1年 安田琥太郎

◇カタツムリのたまご

〜どんな赤ちゃんが生まれてくるのかな?〜

中央小2年 橘 奏登 (◆研究努力賞)



◇フィルムケースロケットを高くとばすための
方ほう NO.2

〜ロケットの形をかえての実けん〜

中央小3年 木下 雄斗 (◆創意工夫賞)

◇あまさくらべ パートⅢ

桜井小3年 濱田 琉惺

◇KAMI リンピック 2016

石田小4年 飛弾 結花 (◆研究努力賞)

◇アリゾゴクの??? (なぞなぞなぞ) Part4

〜知られざるその行動〜

鷹施中1年 中瀬 結衣 (◆研究努力賞)

◇強い建物にするには?

高志野中2年 岸 香介

◇ジャガイモの種イモに関する研究

宇奈月中2年 瀧本 亜矢 (◆研究努力賞)

第11回 黒部市少年少女発明くふう展 優秀賞



小学校139点、中学校27点、合計166点の出品があり、下記の52作品が優秀賞に選ばれ、県に出品されました。第54回県発明とくふう展

ました。(●県での受賞名)

- こうかんできる めいろちょきんばこ
たかせ小1年 深井 瑛太
- すいぞくかん 石田小1年 中野 裕仁
- たのしい めいろ 中央小1年 佐々木恵二郎
- くるくるいそいで ひやすマシーン
(●奨励賞) 若栗小1年 西田 葉月
- スプーンとフォークのてっきん
(●優秀賞) 宇奈月小1年 小柳 華子
- くつ下ちゃくだつぼう
(●奨励賞) 生地小2年 小倉 大志
- 広がるおどうぐばこ
(●奨励賞) 生地小2年 堀 愛怜菜
- むしとりあみ
(●奨励賞) たかせ小2年 飯坂 心登
- お手つだい大きくせん
(●奨励賞) 石田小2年 高山 夏漣
- くるくる手づくりかいてんずし
石田小2年 石田 小春
- けいこくベルト メタボ
(●優秀賞) 村椿小2年 大上戸結音
- なぞのUFO「X」 中央小2年 小倉 広暉
- マラカス BOX 若栗小2年 斉田 琉甫
- べんりなゴミぶくろしゅうのう
宇奈月小2年 中 陽菜乃
- ワクワク！ドキドキ！クレーンゲーム
生地小3年 小倉 舞
- のびるライト付きおそうじ棒
たかせ小3年 石井 優風
- だっしゅつ不可のうファイル
たかせ小3年 先名 莉緒
- ミニカーせん車き 石田小3年 小林廉太郎
- らくらく台車 桜井小3年 内呂 幸慈
(●富山県教育委員会教育長賞)
- マステで忘れ物なし！チェック
(●奨励賞) 桜井小3年 長崎 結華
- ランドセルがぬれないかさ
(●優秀賞) 宇奈月小3年 田中 蒼翔
- だれでもかんたん 洗たくたたみ
(●優秀賞) 石田小4年 中野 舞
- なかよし くつ下 石田小4年 中野 真優
- 自動時間わりあわせ機
桜井小4年 高瀬 柊二
- お手伝いハンガー 若栗小4年 橋本 梓
- 水はねしない水筒ブラシ
(●優秀賞) 宇奈月小4年 勢田 結子

- マイかさ みーつけた
(●奨励賞) 生地小5年 得能 渚聖
- らくらく花火セット
たかせ小5年 永田 大和
- スパイクの土落とし
石田小5年 桑山 翔
- ぴったりミトン 村椿小5年 滑川 和香
- らくらくペンチ
(●黒部市長賞) 中央小5年 寺崎 雅隆
- 光輝く銅・銀・金！！
桜井小5年 鈴木一之竜
- レジ袋ストッカー 桜井小5年 寺島 嵩
- ワンタッチシート
(●優秀賞) 荻生小5年 前田 彩綺
- くるくるつり 荻生小5年 伊達 秀徳
- 素早く・火・つけられ～る
(●優秀賞) 宇奈月小5年 徳道 吏玖
- 小雨お知らせ機
(●奨励賞) 生地小6年 岸 渚紗
- マグネットクリーナー1号・2号
石田小6年 宮崎 佑瑚
- スイスイ機
(●奨励賞) 桜井小6年 千田 杏咲
- 自動階段掃除機 桜井小6年 内呂 勇揮
(●日本弁理士会会長奨励賞)
- ものほしざお かんたんふき
(●優秀賞) 若栗小6年 辻榮 春菜
- かわくよハンガー
(●奨励賞) 宇奈月小6年 大勢待雄耶
- クリップ式ホースホルダー
(●奨励賞) 宇奈月小6年 此川 樹
- 散水ホースガイド 宇奈月小6年 勢田花奈子
(●発明協会会長奨励賞)
- 水切りスタンド 宇奈月小6年 百石 彩愛
- 書道のお困り解決セット
(●優秀賞) 桜井中1年 廣澤 愛
- 紙パックで簡単紙コップディスペンサー
宇奈月中1年 山口 諒悟
- らくらくつめかえメーカー
(●優秀賞) 桜井中1年 太田 莉奈
- Good sleeping stick ～快眠棒～
桜井中2年 庭田 李音
- 楽譜クリップ 宇奈月中2年 齋藤 未夢
- 鍋ぶた立て
(●奨励賞) 高志野中3年 山崎 陽香
- パリッとプレス君 桜井中3年 辻 妃麻李
(●富山県発明協会会長賞)